

登録コード	L1841500	開講年度	2026				
担当教員	新津 健一郎			副担当			
授業科目	東洋史発展演習Ⅴ						
英文授業名	Asian History: Advanced Seminar Ⅴ						
授業タイトル	漢文史料の講読と分析						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	木曜・4時限
講義室	人文501演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			⇔	・辞書等を利用し、漢文史料を読解することができるようになる。また、史料から読み取った情報について、注釈や他の情報源（史料・研究文献等）を利用して、内容を評価・分析できるようになる。 ・史料の読解と分析という専門的学力を基盤として、系統的知識に基づく探究活動および実証的根拠に基づく課題解決を実行できるようになる。 ・自身の見解を的確に他者に伝え、あるいは他者の見解に応答することで、専門性の高い話題について建設的に議論することができるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】			⇔	・辞書等を利用し、漢文史料を読解することができるようになる。また、史料から読み取った情報について、注釈や他の情報源（史料・研究文献等）を利用して、内容を評価・分析できるようになる。 ・史料の読解と分析という専門的学力を基盤として、系統的知識に基づく探究活動および実証的根拠に基づく課題解決を実行できるようになる。 ・自身の見解を的確に他者に伝え、あるいは他者の見解に応答することで、専門性の高い話題について建設的に議論することができるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	歴史学の方法論に基づいて卒業論文を作成するためには、史料の読解と情報の整理・分析というスキルが不可欠です。本授業では、東洋史領域の卒業論文で使用される頻度が高い史料言語である漢文（中国語の古典文語）を題材として、①文献史料を読み込む訓練、②特定の問題意識のもとで史料に書かれた関連情報を収集・整理・分析する訓練の二つを並行して行います。 ①については、漢文で書かれた宋代以前の簡略な通史である曾先之『十八史略』から、後漢時代（後1～3世紀）に関する部分を抜粋して輪読します。これにより、読解技術の向上や工具書（辞書・事典類）使用への習熟を図ります。 ②については、輪読で担当した箇所の内容に関して、任意に設定したテーマに基づき情報を検索・整理・分析するという作業に取り組むこととします。 参加者は、学期中に1回、報告を担当することになります。報告担当者は、担当範囲について①および②の作業を行い、準備した資料（レジュメ）を授業で報告します。教場では資料を読み上げたのち全員で質疑応答と確認を行います。報告担当者は当日交わされた議論の内容をメモしておき、授業後にそれを反映した修正資料を作成して学期末に提出することとします。						
授業計画	第01回 ガイダンス（参加者自己紹介、テキストの解説、受講ルール等の説明、担当仮決め） 第02回 講読準備（基本事項の説明、担当確定、サンプルレジュメ〔底本pp. 9-10〕の説明） 第03回 講読（01）底本pp. 11-13 後漢（東漢）光武帝 第04回 講読（02）底本pp. 14-15 光武帝（続） 第05回 講読（03）底本pp. 16-17 光武帝（続） 第06回 講読（04）底本pp. 18-19 光武帝（続） 第07回 講読（05）底本pp. 20-21 光武帝（続）・明帝 第08回 講読（06）底本pp. 22-23 明帝（続） 第09回 講読（07）底本pp. 24-25 明帝（続） 第10回 講読（08）底本pp. 26-27 明帝・章帝 第11回 講読（09）底本pp. 28-29 章帝（続）・和帝 第12回 講読（10）底本pp. 30-31 殤帝・安帝 第13回 講読（11）底本pp. 32-33 安帝（続） 第14回 講読（12）底本pp. 34-35 安帝（続）・順帝 第15回 まとめ（総括、授業アンケート、修正資料の提出に関する連絡） ※受講者による報告を軸として授業を進行するため、履修者数と実際の報告状況により講読（01）～（12）の内容は多少前後する可能性があります。また、時間が不足する場合は、質疑応答の一部をeALPSで行うなどの対応をとります。						

授業計画	※ページの切れ目は、必ずしも内容や語句の切れ目と一致しません。各回の詳細な担当範囲（どの文字からどの文字までか）は前後の担当者間で相談して決定することとします。
成績評価の方法	・担当回の報告（40%）、学期末に提出する修正資料（40%）、報告担当回以外の発言（20%）に基づき、総合的に成績評価をおこないます。 ・「報告」は、当日のプレゼンテーションについて、発表資料（レジュメ）の形式、辞書等の活用状況、翻訳の正確さ、分析の妥当さ、質問等への対応の的確さを確認します。 ・「修正資料」とは、報告内容について、当日の質疑やコメントをもとに後日修正を加えた資料（レジュメ）を指します。これにより、史料の読解・分析・考察などの技能の定着度を確認します。 ・報告担当回以外の発言については、各回の報告担当者が提示した情報に即した発言（意見や質問）ができていのかどうかを確認します。
成績評価の基準	・史料の読解及び分析の結果が正確であり、それを踏まえて的確かつ学術的発展性のある専門的議論（質疑応答）ができていれば「卓越している」といえる。 ・史料の読解及び分析の結果が正確であり、それを踏まえて的確な専門的議論（質疑応答）ができていれば「かなり上にある」といえる。 ・史料の読解及び分析の結果が概ね妥当であり、それを踏まえて概ね妥当な専門的議論（質疑応答）ができていれば「やや上にある」といえる。 ・史料の読解及び分析の結果が概ね妥当であり、それを踏まえて専門的議論（質疑応答）を試みることができていれば「合格水準にある」といえる。
事前事後学習の内容	・事前学習として、可能な限り丁寧に発表準備を行ってください。自身で計画をたてて、図書館や資料室に足を運び、相応の時間と手間をかけて取り組む必要があります。また、わからないことは放置せず、必ず質問してください。レジュメに盛り込むべき事項と資料作成の方法（生成AIの使用に関する留意事項及び条件・制限等）はガイダンスで説明します。 ・自身が報告担当ではない場合でも、授業で扱う箇所を一読したうえで参加してください。 ・事後学習として、報告担当終了後には修正資料を作成してください。授業中の指摘や質問については極力すべて反映してください。 ・自身が報告担当ではない場合でも、講読で扱われた事項や質疑応答で問題となった点（またはそのことが議論となった原因）について整理し、自身の報告準備または修正資料の作成に反映してください。 ・準備、授業中、復習の全般にわたり、手間を惜しむことなく、意欲的に取り組むことが必要です。相応の時間と労力を要しますが、卒業論文の作成に向けては、自身の関心や問題意識を踏まえて主体的に探究活動を展開する能力の涵養が不可欠です。事前事後学習の指定事項については、単なる作業として機械的に消化するのではなく、積極的、自発的、能動的に活動することを期待します。
履修上の注意	・『十八史略』の底本（【教科書】欄参照）は信大図書館または国立国会図書館（NDL）デジタルコレクションで閲覧可能（無料、要登録）。NDLデジタルコレクションは学修・研究にきわめて有用なツールであるため、授業開始までに個人利用登録（本登録）手続きを済ませておくことを強く推奨します。 ・本授業は「発展演習」です。専門性の高い内容を扱う演習であることに留意してください。ガイダンスの内容をよく理解し、他の報告者のレジュメも吟味したうえで自身の報告準備を進めてください。 ・担当の割り当てを行う必要があるため、初回の授業には必ず参加してください。急病等のやむを得ない理由により欠席する場合は、当日中（遅くとも翌日中）を目途に担当教員までメールで確実に連絡してください。 ・報告担当者の欠席は厳禁とします。スケジュール管理や健康管理等に十分留意してください。ただし、真にやむを得ない事情（「授業の出席に関する要項」に定める学修の補充の対象とする事由など。たんなる準備不足によるスケジュール変更は不可）によるものであれば、代替の機会を設けます。また、報告をもとに議論することも重要な活動であるため、担当者でない場合でも無断欠席は認めません。 ・現代中国語の学習経験（第二外国語として選択した言語）は問いません。不安があれば、ガイダンスのときに相談してください。 ・漢和辞典（字書）は必携。授業の場で史料や検索ツールを使うこともあるため、パソコンなどのデバイス（スマートフォンでは不十分）も持参してください（【教科書】欄のものが望ましいが、大学入学以前に使用したものなどでも一応可）。
質問、相談への対応	・対面での質問や相談は原則として授業の前後に受けることとします。東洋史学研究室の所属者は、研究室内の連絡ツールでも構いません。 ・電子メール（アドレスは履修案内またはeALPSで確認できます）での質問・相談にも対応しますが、返信には時間を要する場合がありますので、余裕をもって問い合わせてください。 ・個別に面談を希望する場合は、まず電子メールで問い合わせてください（対面・遠隔のいずれでも対応可）。
教科書	・（テキスト）服部宇之吉ほか校訂『漢文大系 第五巻』増補3版、富山房、1978年。 ※購入不要。図書館に紙媒体で所蔵されており、国会図書館デジタルコレクションでも閲覧可能（要登録）。講読に必要な部分は初回の授業で配布予定。 ・（辞書）戸川芳郎監修『全訳漢辞海』第5版、三省堂、2026年。 ※漢字辞書は必ず用意すること。『漢辞海』旧版や他の辞書（同程度の内容であるもの）でも可。また、『漢辞海』アプリを併用しても可。オンラインで閲覧できる辞書コンテンツは、紙媒体版が学術／教育系出版社から出版されているものを使用すること。 ・事前事後学習のなかでは、各自の知識と習熟度に応じて、高等学校用の世界史／漢文教材（年表・図表、用語集、便覧など）も適宜補助的に使用すること。
参考書	〔翻訳・訳注〕

参考書	・林秀一『新釈漢文大系 十八史略』明治書院、1967年。 ・吉川忠夫訓注『後漢書』岩波書店、2001年。 ・渡邊義浩ほか編『全譯後漢書』汲古書院。 ・竹内弘行『十八史略』講談社学術文庫、講談社、2008年。 ・今西凱夫訳、三上英司編『十八史略』筑摩書房、2014年。 〔辞書・事典類〕 ・『大漢和辞典』大修館書店。 ・『アジア歴史辞典』平凡社。 ・『中国歴史地図集』地図出版社。 ・『漢語大詞典』漢語大詞典出版社。 ・『中国史籍解題辞典』燎原書店、1989年。 ・西川正雄ほか『角川 世界史辞典』角川書店、2001年。 ・『中日辞典』第3版、講談社、2010年。 ・太田辰夫『中国語歴史文法』朋友書店、2013年。 ・尾崎雄二郎ほか編『中国文化史大事典』大修館書店、2013年。 ・『中日辞典』第3版、小学館、2016年。 ・湯浅邦弘ほか『テーマで読み解く中国の文化』ミネルヴァ書房、2016年。 ・吉田誠夫編『中国職官辞典』日外アソシエーツ、2020年。 ・日本中国語学会編『中国語学辞典』岩波書店、2022年。 ・日本中国友好協会編『中国百科』増補改訂版、めこん、2023年。 （辞書・事典類は中央図書館2階参考書コーナーや資料室で閲覧すること。近くの書架にある辞書・事典類も積極的に利用してください） 〔漢文入門〕 ・加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫、2010年。 ・古田島洋介、湯城吉信『漢文訓読入門』明治書院、2011年。 ・前野直彬『漢文入門』ちくま学芸文庫、筑摩書房、2015年。 ・濱口富士雄編『漢文語法の基礎』東豊書店、2018年。 ・宮本徹、松江崇編『漢文の読み方』放送大学教育振興会、2019年。 ・西田太一郎『漢文の語法』KADOKAWA、2023年。 ・中川諭『漢文を基礎から学ぶ』東方書店、2023年。 〔中国文献学関連〕 ・高橋智『書誌学のすすめ』東方書店、2010年。 ・坂出祥伸『初学者のための中国古典文献入門』ちくま学芸文庫、筑摩書房、2018年。 ・伊藤洪二『図書館のための和漢古書目録法入門』樹村房、2019年。 ・古勝隆一『中国注疏講義』法藏館、2022年。 ・斯道文庫編『図説書誌学』訂正新版、勉誠社、2023年。 ・清水茂『中国目録学』筑摩書房、2024年。 ・陳力（楊帆訳）『中国図書史』京都大学学術出版会、2025年。 〔漢代史に関する研究書〕 ・狩野直禎『後漢政治史の研究』同朋舎出版、1993年。 ・渡邊義浩『後漢国家の支配と儒教』雄山閣出版、1995年。 ・東晋次『後漢時代の政治と社会』名古屋大学出版会、1995年。 ・多田狷介『漢魏晋史の研究』汲古書院、1999年。 ・重近啓樹『秦漢税役体系の研究』汲古書院、1999年。 ・佐原康夫『漢代都市機構の研究』汲古書院、2002年。 ・富谷至編『邊境出土木簡の研究』朋友書店、2003年。 ・高村武幸『漢代の地方官吏と地域社会』汲古書院、2008年。 ・小嶋茂稔『漢代国家統治の構造と展開』汲古書院、2009年。 ・渡邊義浩『後漢における「儒教国家」の成立』汲古書院、2009年。 ・紙屋正和『漢時代における郡県制の展開』朋友書店、2009年。 ・陶安あんど『秦漢刑罰体系の研究』創文社、2009年。 ・富谷至『文書行政の漢帝国』名古屋大学出版会、2010年。 ・渡邊将智『後漢政治制度の研究』早稲田大学出版部、2014年。 ・伊藤敏雄ほか編『湖南出土簡牘とその社会』汲古書院、2015年。 ・井ノ口哲也『後漢経学研究序説』勉誠出版、2015年。 ・富谷至編『漢簡語彙考証』岩波書店、2015年。 ・藤田勝久『中国古代国家と情報伝達』汲古書院、2016年。 ・渡邊義浩、稀代麻也子編『後漢書研究便覧』汲古書院、2016年。 ・高村武幸編『周縁領域からみた秦漢帝国』（一・二）六一書房、2017/2019年。 ・藤田勝久、關尾史郎編『簡牘が描く中国古代の政治と社会』汲古書院、2017年。 ・永田英正『漢代史研究』汲古書院、2018年。 ・宮宅潔編『多民族社会の軍事統治』京都大学学術出版会、2018年。 ・松島隆真『漢帝国の成立』京都大学学術出版会、2018年。 ・伊藤敏雄、関尾史郎編『後漢・魏晋簡牘の世界』汲古書院、2020年。 ・姜生『漢帝国の遺産』東方書店、2020年。 ・佐藤達郎『漢六朝時代の制度と文化・社会』京都大学学術出版会、2021年。 ・古勝隆一『中国中古の学術と社会』法藏館、2021年。 ・阿部幸信『漢代の天下秩序と国家構造』研文出版、2022年。
------------	--

参考書	・飯田祥子『漢新時代の地域統治と政権交替』汲古書院、2022年。 ・目黒杏子『漢王朝の祭祀と儀礼の研究』京都大学学術出版会、2023年。 ・福永善隆『前漢官僚機構の構造と展開』汲古書院、2024年。 ・宮宅潔編『暴力のありか』臨川書店、2024年。 ・上野祥史、下田誠編『秦帝国と封泥』六一書房、2024年。 ・大櫛敦弘『秦漢統一国家体制の研究』汲古書院、2025年。 ※その他、ガイダンス及び授業の中で随時紹介します。
-----	--